

## SDGs と DX

野瀬 隆平

「DXによってイノベーションを起こし、SDGsの達成に寄与するべきだ」。これが最近の政府や経団連の共通認識である。

この文章が、すんなりと理解できるだろうか。

SDGsは、新聞や雑誌に最近よく出てくるので、知っている人も多いかも知れぬが、DXについては、まだ広く知られているとは思えない。

SDGsは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称である。2015年の国連サミットの中で、世界のリーダーによって国際社会に共通する目標として決められたものだ。貧困を無くそう、飢餓をゼロにしようで始まり、ジェンダー平等を実現しようなどの項目を含み、パートナーシップで目標を達成しようで終わる17の目標からなっている。

もう一つのキーワード、DXは“Digital Transformation”(デジタル・トランスフォーメーション)のことである。それならば、DTではないのかと思うかも知れない。しかし、英語でtransという接頭語はXと略記されるようだ。例えば、transferはXfer、transmitはXmitのように。

それはさておき、ではDXとは何のことか。一言でいえば、デジタル技術や蓄積されたデータを有効に活用して、企業や社会の風土を変革する、ということだろう。

カタカナや英文字が、日本語の中に多く入り込んできたのは、今に始まったことではない。海外から入ってきた概念などを、言葉の音どおりカタカナで表記したり、略号をローマ字で書けば、日本語に訳して書くよりも字数の節約になるのは確かである。

驚いたのは、これが新聞記事の中だけの話ではないことだ。朝日歌壇に掲載された短歌の中に、「エッセンシャル・ワーカー」などと並んで、「SDGs」が歌い込まれている入選作品があった。「えすでいーじーず」とふりがなが振られていた。

「デジタル・トランスフォーメーション（DX）の本質が、やっと浸透してきた。システムベンダーがDXという言葉先行のセールスを展開するフェーズを終えて……」

このような表現が、すんなりと頭に入るような人が、これからの社会に求められる日本人なのだろうか。